

インプラント外科にとって
サージカルガイドは必須です。
全症例で使用することを
お勧めします。

■ iCATをお知りになったきっかけは何でしょうか？

2007年頃のことでかなり古い話になりますが、当時は海外メーカーのインプラントシミュレーションソフトとサージカルガイドシステムを採用していました。ただ、ソフトウェアの操作やサージカルガイドで使いにくい部分があったので、改善できないかと要望を出したんです。でも、全然受け入れてもらえず何も変わらなかった。そこでもっと柔軟に対応してくれるメーカーはないだろうかと調べたところ、iCATが候補に挙がったというのが経緯ですね。

インプラントや他の機器もそうですが、iCATをはじめ国内メーカーは自分たちの意見を聞いて改善してくれることが多く、非常にありがたいと思います。

■ 他社製サージカルガイドも使われたことがありますが、その違いはどこに感じられますか？

サイドエントリーやガイドの橋渡し(図1)など、使い勝手が良いと思います。ガイドそのものだけでなく、埋入プロトコルの掲載された書面が同封されているのが非常に良い。実はこれ、自分が同封してもらえるようお願いしたのですが(笑)。iCATを知ったキッカケでもお話ししましたが、こういうお願いに応えてくれるところも違いですね。



図1) サイドエントリー※1、橋渡しを付与した Landmark Guideの例。サイドエントリー(左図のガイドでは7番に付与)によりドリルを頬側から挿入でき、開口量が少ない患者でもガイドが利用しやすい。また、橋渡し部分を押さえることでガイド全体を均等に押さえることができる。

※1:インプラントメーカーやガイドの種類、症例によってはサイドエントリーに対応できない場合があります。

■ サージカルガイドはどのような症例に使われていますか？

全症例で使っています。最初はφ2mmのイニシャルドリルのみをサポートするシングルガイドを使っていたのですが、私は京セラのFINESIAを使っているため、少しでも精度を上げるため今では埋入までサポートしてくれるFINESIA用のフルガイド※2(図2右)をすべての症例で使っています。骨がなく、他院ではインプラント治療はできないと言われた患者でも、サイナスリフトのシミュレーションからガイドを用いた埋入までLandmark Systemがサポートしてくれるので本当に助かってます。

※2:iCATはFINESIA(京セラ)のフルガイドに公式に対応。

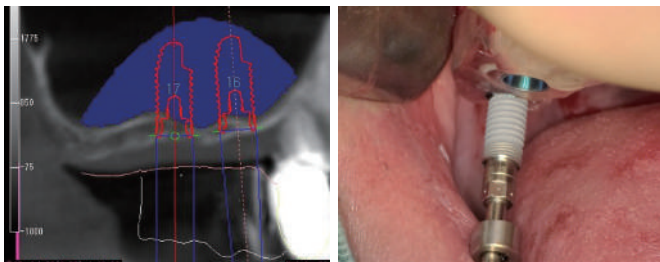


図2) Landmark Systemを用いて埋入シミュレーションからインプラント埋入まで行った症例。シミュレーションソフトLANDmarkerでは骨移植に必要な補填材の目安もシミュレーションできる。

■ サージカルガイドについて患者さまへどのように話されていますか？

インプラント治療の説明の際に、当院の特長としてサージカルガイ



ドを用いた手術についてのお話しをしています。サージカルガイドを使うことによりシミュレーション通りの埋入ができ、それによりインプラント治療の成功率やインプラントをより長く使っていただける可能性が上がると説明しています。

どの患者もサージカルガイドのメリットや必要性を理解し、納得していただいています。先ほどのサイナスリフトの症例でも、一緒にシミュレーション画面を見ながら説明することで納得でき、サージカルガイドでその通りのオペができるということと不安も取り除かれます。

■ 費用についてはどのようにされていますか？

インプラントのフィクスチャー同様『サージカルガイド』という項目を設けています。敢えてサージカルガイドを項目として設けることで、患者にサージカルガイドを使った安心・安全な手術に取り組んでいることをアピールしています。ときどきサージカルガイドの費用を請求できないという話を聞きますが、なぜサージカルガイドを使うのか？を丁寧に説明しているため、これまで断られたことはないですね。

■ 今後のiCATに望まれることは？

サージカルガイドには非常に助けられています。でも決して完璧なものではないと思いながら使うようにしています。iCATには、より操作性のよいもの、より精度の高いもの、より良いものを目指して製品開発を続けてほしいですね。今後も我々臨床家の意見を聞いて製品・サービスに反映してくれる会社であってほしいと思います。また、これからインプラント治療を始める先生方には積極的にiCATのシステムを広げてほしいですね。自分も若手歯科医師により良い治療を行ってほしいと自身の知識や技術を伝えるサイト※3を運営しています。次世代の先生方が、もっともっとレベルの高い治療を患者に提供できるよう、iCATも歯科医療に貢献してくれることを期待しています。

本日はお忙しいところお時間を頂戴いたしましてありがとうございました。

※3: 歯科医師 新谷悟の歯科口腔外科塾
(<https://www.dentaljuku.net/>)

